第５回町田市生涯学習審議会会議概要

日　時　　２０２１年1月１８日（月）９時３０分～１１時３０分
会　場　　市庁舎１０階　会議室１０－２、１０－３
出席者　　委　員：吉田会長、瓜生副会長、影山委員、仙北屋委員
渡辺(恒)委員、関根委員、小﨑委員、陶山委員
清水委員、渡邉(正)委員、喜田委員、渡辺(雅)委員
事務局：生涯学習部長、生涯学習総務課長、生涯学習総務課担当課長、生涯学習センター長、図書館長、文学館長、生涯学習センター係長、その他市職員３名
傍聴者　０名

＜次第＞

１．諮問

２．生涯学習審議会の進め方について
①生涯学習センターのあり方見直し検討について
②全体スケジュール

３．町田市における生涯学習について

４．その他

【会議内容】

１．諮問

資料１－１生涯学習部の報告事項について、生涯学習総務課長より説明。
資料１－２生涯学習センター利用者アンケート結果について、生涯学習センター長より説明。

生涯学習部長から会長へ「今後の町田市生涯学習センターのあり方について

（諮問）」の諮問書の読み上げを行った。

＜生涯学習センター長の挨拶＞
　第５期生涯学習審議会において、本日の第５回から第１１回まで７回にわたり、「今後の町田市生涯学習センターのあり方について」ご審議いただく。
２０１９年度の第４期生涯学習審議会でいただいた「今後の町田市生涯学習センターに求められる役割について」の答申を踏まえ、諮問書にある「目指すべき姿について」「効率的・効果的な管理運営手法について」ご審議をお願いしたい。
発足から９年が経過しようとしている生涯学習センターについて、社会状況や環境の変化等も踏まえ、委員の皆さまには様々な視点からご意見をいただきたいと考えているため、よろしくお願いしたい。

２．生涯学習審議会の進め方について
　①生涯学習センターのあり方見直し検討について
　②全体スケジュール

会　長：生涯学習センターについて、７回に渡り審議を行うが、この７回の間に任期が終了する委員もいる。あり方については、今までの経緯を把握しなければ答申も出せないため、これまでの答申や議論などについて丁寧にご説明いただくとともに、生涯学習センターの現状について、委員の皆さまに分かるようにご配慮いただきたい。では、まず、事務局から資料について説明をお願いしたい。
資料３生涯学習センターのあり方見直し検討に関連する計画等について
事務局：町田市の計画として大事な計画を３つ紹介する。１つ目は、行政経営改革プランである。町田市を取り巻く状況だが、人口減少・超高齢化社会の到来、構造的収支不足、公共施設の老朽化に伴う維持管理経費の増大などがある。これらの状況を踏まえ、行政経営上の課題を解決するための取り組みを行政経営改革プランとして定めている。このプランには２つの柱があり、１つは、市役所業務の全般を見直すことにより、スリム化や効率化を図る、という市役所の生産性の向上、もう１つは、公共施設の再編を行うことで、公共施設におけるサービスのあり方を見直す、という公共施設における行政サービス改革である。生涯学習センターの項目としては役割・事業内容を改めて検討するとともに民間活力の導入も含めた、効率的・効果的な管理運営手法を検討し、２０２１年度までに方向性を決定するという内容である。すでに、第４期生涯学習審議会から「今後の町田市生涯学習センターに求められる役割につい

て」の答申を受けているため、これを踏まえてご審議いただき、あり方についての答申をいただく。その上で、２０２１年度中に生涯学習部として生涯学習センターのあり方見直し方針を策定する予定である。２つ目は、公共施設再編計画である。高度経済成長期の急激な人口増加などに対応するために、公共施設を整備してきたが、その多くの施設が老朽化による更新時期を迎えている。財政状況が厳しさを増す中でも、必要な公共サービスを維持・向上させていくため、公共施設の再編を進めていくという計画である。生涯学習センターは、２００２年にオープンした町田センタービルの中にあり、施設としては、極めて好立地で、貸出施設の利用率も高いこと、生涯学習事業としては、特定の施設ではなくても実施が可能であることが記載されている。今後の方向性として行政経営改革プラン同様、２０２１年度までに事業内容の見直し及び管理運営手法の方針を決定するとしている。３つ目は、（仮称）まちだ未来づくりビジョン２０４０である。こちらは２０２２年からの新たな基本構想・基本計画として策定を進めており、ライフステージを意識した計画の体系となっている。生涯学習分野に関する部分として、政策４「いくつになっても自分の楽しみがみつかるまち」の中に、施策４－１「生涯にわたる学習の『しやすい』を支援する」がある。ライフステージとしては、４５歳から６４歳までの中年期の施策としているが、そのねらいとしては、定年退職後を見据えた生き方の支援を行うということで、６０歳を超えたときの地域活動層をつくること、次の生き方を学ぶ機会や場の提供の支援ということを考えて位置付けられている。施策推進の方向性として、学びに出会う機会の充実、学習成果をいかす機会の充実を挙げている。最後に、教育委員会における生涯学習の計画としては、町田市教育プランがある。生涯学習に関する基本目標は、生涯にわたって自ら学び、互いに支え合うことができる地域社会を築く、である。基本方針３家庭・地域の教育力を高める、基本方針４生涯にわたる学習を支援する、に基づき、生涯学習に関する様々な取り組みを進めている。これらの計画やその考え方、現在の町田市の状況や生涯学習部の状況を理解したうえで検討をしていただきたい。より多くの市民に親しまれ必要とされる施設として継続していくためにはどうしたらいいのか、ご審議いただきたい。

資料４町田市生涯学習センターのあり方見直し検討スケジュール

事務局：本日の第５回から第１１回までの計７回で議論し、答申をまとめていただく。第６回会議の後、６月まで期間が空くのは、年度が変わることで委員構成に変更が生じるためである。その間、ワークショップや

利用者アンケートなどにより、市民の方や利用団体からできるだけ多くのご意見をお伺いし、会議資料としてまとめる予定である。続いて、議論内容についてだが、まず、第５回・６回会議では、町田市における生涯学習についてというテーマで議論をお願いしたい。生涯学習センターは、町田市において生涯学習を推進していく中枢の施設であるため、具体的な事業の整理に入る前に、土台となる部分を固めたいと考えている。学習に関する取り組みを行っているのは生涯学習センターだけではないため、庁内他部署や、市内で活動している様々な関係機関・団体にもしっかりと目を向けた上で、その中での行政の役割・立ち位置はどのようなものかという点についてご意見をいただきたい。次に、第７回・８回会議では、現在実施している事業の見直しを行っていただく。検討にあたっては、第４期生涯学習審議会「今後の町田市生涯学習センターに求められる役割について」の答申でご提案いただいた「学習全体の見取り図」というものをご用意させていただく予定である。この「学習全体の見取り図」とは、関係機関や各種団体、他部署がどのような学習支援の取り組みを行っているかという情報を体系化し、学習情報が一目で分かるようにしたものである。そして第９回では、目指す姿の明確化と管理運営手法について、第１０回では引き続き管理運営手法と答申の骨子案確認、最終回である第１１回会議では、管理運営手法と答申案の確認となっている。管理運営手法の検討にあたっては、他市の事例を調査し、参考としながら議論していただけるよう準備させていただく。また、町田市生涯学習センター運営協議会へは、協議会会長である委員を介して情報共有を行いながら、適宜ご意見をいただきたいと考えている。

会　長：第４期生涯学習審議会の答申は、委員の皆さまに配布しているのか。

事務局：１月と２月の会議においては、町田市における生涯学習についてという内容になるため、６月に予定している会議の資料としてお出しする予定である。

会　長：その答申が基盤になると思うので、先に配布していただきたい。

事務局：本日の会議終了後に送付させていただく。

会　長：町田市における生涯学習について、グランドデザインのようなものを考えていく必要がある。これまでの状況について、説明をお願いしたい。

３．町田市における生涯学習について

資料５生涯学習組織の改編歴

事務局：２００７年度までの体制を見ると、社会教育課、図書館をはじめ、スポーツ課や博物館、公民館、青少年施設であるひなた村や大地沢青少年センターなど生涯学習部は非常に多くの課を所管していた。２００８年４月に町田市全体で部の再編成が行われ、生涯学習部は、社会教育課から名称が変わった生涯学習課と公民館、図書館の３課のみとなり、市長部局の文化スポーツ振興部に博物館、スポーツ振興課、国際版画美術館が新設され、子ども生活部にひなた村と大地沢青少年センターが移設された。併せて、市民部に市民協働推進課が新設され、地域・市民との協働がより一層推進されることとなった。２０１２年４月には一部組織改編があり、生涯学習課が生涯学習総務課となり、このとき生涯学習センターが開館した。生涯学習センターの設立にあたっては、１９９３年「まちだ市民大学ＨＡＴＳ」が開講したことに始まり、市民にとってより利用しやすい生涯学習環境を整備するため、総合的に生涯学習を推進する「センター機能」についての検討が長らくされていた。そして、２０１２年３月に社会教育委員の会議から答申を受け、市民大学ＨＡＴＳと公民館を統合するとともに、庁内の各部署で行っていた「生涯学習支援にかかる機能」を一括・強化して担う組織を目指し、生涯学習センターの設置に至っている。社会教育委員の提言では、生涯学習支援にかかる機能を一括・強化して担う役割を「センター機能」とし、①企画計画立案機能、②関係機関との総合調整機能、③情報集約・発信機能、④学習相談機能の４つと定義している。次に、町田市における生涯学習の現状だが、教育委員会生涯学習部では、生涯学習センターだけでなく自由民権資料館や図書館・文学館においても、講座事業や学習スペースの提供を行っている。市長部局の文化スポーツ振興部では、多くの市民に関心を寄せてもらえる学びの入り口となるようなランドマーク的事業の実施、子ども生活部では家庭教育支援事業、市民部では、各市民センターにおいて学習スペースの提供をしており、地域の方々の活動拠点の１つとなっている。市民協働推進課では、協働推進係を中心に、地域課題の解決に向けた市民活動の支援を行っており、庁内において市民協働の推進役を担っている。地域福祉部やいきいき生活部では、それぞれの分野に特化した福祉的事業を実施しており、政策経営部では、「まちだ〇ごと大作戦」が実施され、市民協働による町おこし、まちづくりを実現している。また、庁外においては、町田市地域活動サポートオフィスや町田市社会福祉協議会、町田市シルバー人材センターなど、多くの組織が活動し、活躍の場の提供や地域課題の解決に向けた取り組みが行

われており、さらに、大学や専門学校などの教育機関では、学生以外の人たちに向けた講座事業が実施されている。この他にも、多くの組織が、庁内外問わず、様々な場所でその組織の得意分野に特化した学習支援のための取り組みが展開されている。

会　長：町田市における生涯学習の現状をみると、生涯学習部が全て担ってきた時代から変わってきていることも踏まえ、今後、生涯学習センターがどのような役割を担っていくのかを考えていかなければならない。引き続き、資料の説明をお願いしたい。

資料６－１今後の生涯学習施策の進め方について（答申）

資料６－２検討にあたっての視点

事務局：資料６－１をご覧いただきたい。第３期生涯学習審議会の答申においては、「施策を検討するうえでの基本的な考え方」として、生涯学習の意義や使命を整理している。そのうち、改めて意見交換をお願いしたいのが（１）生涯学習は何のためにあるのか、と（２）生涯学習行政の使命とは何か、の２つである。これから生涯学習センターのあり方見直しの検討を進めていくにあたっては、この第３期生涯学習審議会の答申と、さらに、第４期生涯学習審議会でいただいた答申も併せて踏まえていく必要がある。第４期生涯学習審議会の答申においては、生涯学習センターに求められる４つの役割が整理されており、今回議論していただく生涯学習の基本的な考え方は、その４つの役割の土台として位置づけられることとなる。庁内外においては、すでに様々な学習支援の取り組みが行われていることを踏まえた上で、改めて議論をお願いしたい。次に、資料６－２をご覧いただきたい。まず、全体に関わる基本的な視点として、２つ挙げている。１つ目は「２０１２年に生涯学習センターを設置し、社会教育行政→生涯学習行政へ転換」していること。２つ目は「企業やＮＰＯ、大学、他部署などさまざまな場所で学習に関する取組が行われている」ということである。こちらを参考にしながら、町田市として行政が担うべき生涯学習はどのようなものか、意見交換をお願いしたい。

＜意見交換＞

会　長：本日は、学校関係者にもご出席いただいているため、社会に開かれた教育課程というものを生涯学習としてどのように具現することができるか、そういうことも含めてご意見をいただきたい。資料５の町田市における生涯学習の現状というところにも、学校教育部が入っており、生涯学習部だけではなく学校教育部も含めて考えていかなければ

いけない。また、市長部局でも様々な取り組みがあるため、市長部局のあり方も踏まえ、生涯学習センターとしての役割を考えて全体の見取り図をどうしていくかが答申の骨子となると思う。これまでの事務局の説明を踏まえ、ご意見をいただきたい。

Ｊ委員：社会全体が価値も含めて多様化していく時代である。例えば、スマホを使用している方もいれば、ガラケーを使用している方も少数いる。そういう中でスマホでなければ出来ないことが広がっていってしまうと、これからの社会のニーズを汲み取っていけないのではないかと感じている。多様性というものがこれから重要視されるのではないか。買い物にしても、昔はデパートで並んでいるものは、良いものでありみんなが欲しい憧れのものという時代であったが、そのようにオーソライズされた時代はすでに過ぎ去ったように思う。最近は、必ずしも共通コンセプトがあって集められたのではない多様なテナントが入っており受け入れられていることを考えると、行政としても方向性を出していく際に多様なものを含めて考えていかなければならない。例えば、文学館だと、もちろん文学が中心だが、最近だとサブカルチャー的な分野も扱っている。多様なものを許容していけるようになっていければ良いのではないか。

会　長：間口を広くするということである。市長部局が行っている取り組みについても、生涯学習に含めて見取り図を考えていくのかが考えどころである。委員がおっしゃっているように多様性の時代で、物事を多角的・多重的・多層的に見ていくのが１つの今のあり方のようである。そういう意味では、一元的にこの方向性にしていくというようなことは出来ないと思っている。この会議も、オンラインで実施しているが、会場には事務局の方たちがおり、リアルとオンラインのハイブリットで行っている。このようなかたちは１年前では考えられなかったことで、未だにオンラインで実施していない自治体もあるため、これも１つの先進的なあり方だと思う。

Ｅ委員：多くの資料と多岐にわたる話であるが、端的に言えば、生涯学習センターの目的や効率化を検討するということだと思う。もちろん、広い視野で検討していくが、まずは、生涯学習センター自体を理解しなければならないのではないか。何度か生涯学習センターに行ったことはあるが、育児教室やかるた会などの子ども関係だったため本来の生涯学習センターとしての機能としては利用していないのではないかと思う。生涯学習センターの１つの機能である施設貸出にしか関わっていない。まずは、施設見学をして、現在の生涯学習センターを知らない

とこれからの話はできないのではないか。

会　長：第４期生涯学習審議会で生涯学習センターの答申を出す際、施設見学をしているため、今の委員の方々も行く必要がある。アンケートもそうだが、直接生涯学習センターの利用者に話を聞くということもあって良いのではないかと思うが、どうか。

事務局：第６回会議を生涯学習センターで開催しようと考えていたが、新型コロナウィルス感染症の拡大により出来なくなってしまったため、６月に開催予定の第７回会議を生涯学習センターで行い、機能を見ていただこうと考えている。

会　長：６月だと任期が終わってしまう委員もいるが、新型コロナウィルス感染症の対応もあるので、仕方がないが、このコロナ禍の中で生涯学習センターがどうなっているのかについても知りたい。

Ｂ委員：資料６－２の主なキーワードにある「人材育成」されるべき人材像という記載に注目している。なぜ、これをキーワードとしたのかもう少し説明していただきたい。

事務局：第３期生涯学習審議会の答申の中に、生涯学習に関わる人材を見出し、新たな人材の育成を進めることが生涯学習行政の重要な柱であること、市民生活の様々な分野で活躍されている方を発掘し、生涯学習を推進する活動に参画してもらえるように働きかける必要があることが記載されている。しかし、地域で活動している方々の中には学びということを意識していない方もおり、結果的に地域貢献につながっていることも多いと考えている。そのような中で、生涯学習としての人材育成をどのように考えていくか議論いただきたいと思い、このキーワードを入れた。

Ｂ委員：１度しか生涯学習センターに行ったことがないが、非常に立地が良く、割と趣味色が強かったという印象を持っている。現在、コロナ禍で非正規の若者が非常に大変な状況に置かれており、そういった方々が自身で立て直せるかというと中々難しいと感じている。そういう方々に学びがエンパワーとなり、キャリア的に学びを活かす役割を生涯学習センターが担っていけると良い。また、自分が困ったことは、他の人も困る可能性が高い。自分が困ったことを他の人に伝え、同じ境遇にある人とつながりながら、ちょっとずつ改善していくことが地域のあり方だと思うため、そういうところに寄与できる方向性があると良いのではないか。

会　長：今、人材育成の話が出てきたが、現在、国は社会教育士を養成しようとしている。社会教育士の実態はわからないが、そういったことを含

め、地域で機能する人をどう育成していくかという話が出てきている。どのように学び合うかということでもある。

Ｇ委員：生涯学習センターを取り上げるということで、とても期待している。来年度から、町田市全体の学校がコミュニティ・スクールに変わる。このコミュニティ・スクールは、地域の方々とつながるということが大きなメインテーマとなっている。私の学校では、地域人材とのつながりに早くから取り組んでおり、新聞など様々な情報をもとに人材発掘をしている。実は、広島や長崎の戦争教育について生涯学習センターで講演があると知り、聞きに行った。そこで講師をされた方と名刺交換を行い、学校にも来ていただくところまで取りつけた。コロナ禍のため、まだ実現できていないが、生涯学習センターの事業は、学校として興味がある部分が多くある。ただ、様々な情報の中で、生涯学習センターで活躍されている方々が、学校現場で話をする際にどのように話をすればいいのか分からないということも聞いている。学校が地域に何を求めているのか皆さんよく分からないのではないか。これは重要なことで、日本の将来を担っている部分でもあると思う。私は、２０年ほどキャリア教育に関わっているが、なぜ、学校現場で英語を取り入れているのか、なぜ、地域の方とのつながりを持とうとしているのか知っている一般の方は少ないのではないか。英語より国語をやるように言われる方も多いが、今後、外国の人材を入れないとおそらく日本は潰れてしまう。そうなった時、英語を話せないと職場では孤立してしまうため、小学校から英語教育を行っている。そういった情報を学校からも発信したいと思っているが、生涯学習センターの講座などを活用して発信することができると良い。さらに、様々な人材と学校現場をつないでいただくのが、ボランティアコーディネーターなどの学習支援のボランティアではないか。そのようなつながりが、本来の意味での生涯学習であると考えている。今のままだと、学校現場が置き去りにされたまま生涯学習が進んでいってしまう。様々な人材とつながった学校で学んだ子ども達が成長し、６０代・７０代になってようやく生涯学習と言えるのではないか。対象を３０代・４０代に狭めて生涯学習をやるだけではなく、もっと学校と地域が関わり、学校で生涯学習を行うことができればいいのではないか。今回の検討にあたって、そのような視点を入れていただければ学校の立場としてはとても有効だと思っている。

会　長：東京都で地域学校協働活動推進事業というものを始めている。学校と地域が協働する、もう少し言うと、学校という１つの学びの組織を中

核にして、地域の活性化を図っていくという動きである。地域学校協働活動の推進フォーラムもあるため、機会があれば参加してみるのも良い。学校が何を求めており、どのような方向性なのか知ることも新たな生涯学習になる。

K委員：生涯学習センターを考えていく時に、答申の中の表現で気になったところがある。生涯学習施設の取り組むべき課題にある⑤民間のノウハウ活用という部分で“公共施設も広義の「サービス業」という視点を持って”という表現に違和感がある。市民参画や学校教育との連携と、サービス業というのは相反しているように思う。生涯学習センターがサービス提供者に特化してしまうと、市民は、お客様として参画するしかなくなってしまうのではないか。やはり、市民が当事者として参画していくという視点を柱に持っていく必要がある。生涯学習センターがすばらしいサービスをお客様に提供するというだけの視点で組み立てていくと、お金を支払って行く民間の習い事と、社会教育・生涯学習と何が違うのかということになってしまう。答申に記載された表現にそこまでの意味はないのかもしれないが、生涯学習としては参画する市民をお客様として考えるより、担い手として参画していただく、共に作っていくということが柱となるべきなのではないか。公共も、おもてなしやホスピタリティが行き過ぎると、サービスを受ける側は受動的になってしまい、主体性が弱まってしまう。生涯学習センターや職員の人材育成を考えるときには、民間企業がサービスを提供するような視点ばかりではなく、市民にどう主体性を持ってもらうかという視点を柱にしたほうが良いのではないか。

会　長：私も学校教育に関わっていたときにいつも言っていたのは、学校はサービス業ではないということである。一緒に作り出すという意欲がなければいけない。サービスを提供するという教育は、教育産業としては成り立つと思うが、一緒に作っていくということが大事な視点だと思う。同時に、例えば、地域課題を解決するために生涯学習が何かをやっていくということになると、市民協働推進課がやっていることと何が違うのかということになる。全体の見取り図を作り、生涯学習センターがハブ的な機能として担うのは良いが、生涯学習の事業として全て担うとなると行政的・政治的な課題も市民に担わせることになり負担である。もう少し明るく前向きな学習があっても良いと考えている。

D委員：学校から発信していくということは、大切だと思う。私や他のボランティアコーディネーターも、生涯学習センターの様々な方を学校へお

招きしてつなげてはいるが、少し課題が見えている。お呼びした方々の中には、どのように話したら子どもたちに理解してもらえるのかなど子ども達の状況が分からず、うまくいかないこともあった。例えば、講師としてお呼びする方々に、学校の状況、子ども・保護者の考え方などについてお伝えできるような講座があれば良いと感じている。もう１つは、生涯学習に関わる人材育成ということで、講師の方々を育成するにあたり、歴史・文化・観光など町田のことを良く知る人を育てるような講座が他の自治体では人気であるため、町田マイスターを育てるというのも１つのアイディアだと思う。そういった方々に学校へ来ていただき、子ども達がより町田のことを知る機会を作っていただければ良いのではないか。

会　長：学校のことを知らせるとともに町田のことを子ども達に伝えるというような、双方向の交流が出てくると良い。私が読んでいる新聞にも、時々町田のことが書かれている。よく取り上げられるのが、町田市と八王子市で、様々な取り組みを行っている。地域の話題をうまく取り上げて子ども達に周知するというのも良い。

Ｉ委員：第４期生涯学習審議会で答申を出す際も、生涯学習センターについて色々伺ったが、まだよくわかっていない部分が多くある。実際にやっている事業がまちだの学びの中に記載されているが、この１つ１つの事業に関して、どのような進め方でやっているのか伺いたい。利用者が、内容について一緒に検討して作っているものなのか、もしくは、生涯学習センターがリードして作っているものなのか。

会　長：講座の課題や現状について、どうか。

Ｈ委員：生涯学習センター運営協議会（以下、センター運協）会長を務めている。生涯学習センターのあり方について、皆さまと検討していくのを非常に楽しみにしていた。センター運協についてお話しさせていただくと、委員構成としては、大学の先生などの学識経験者、市民大学などの生涯学習センターが提供しているプログラムに深く関わる立場の方、障がい者や子育てを支援している団体の方、他の行政とつながっている方などである。毎月、オンラインとリアルを併用しながら検討している。今年度については、第４期生涯学習審議会の答申の４つの視点「誰もが学べる環境をつくる」「課題解決を支援する」「学びの裾野を広げる」「学びのネットワークづくりを促進する」について、センター運協としてどのようなプログラムを展開・実行していくかということを検討している。この４つの視点の１つずつについて、議論し、現在は、「誰もが学べる環境をつくる」というところの２回目が

終わったところである。この“誰もが”という部分で、センター運協では、高齢者や障がい者、子育て中の方、外国人などいわゆる学べる環境から遠ざかりがちな方々に対し、アウトリーチも含めて学べるようにしていこうという議論があった。生涯学習という言葉のニュアンスなのかもしれないが、いくつになっても学ぶというイメージが先行していることもあり、生涯学習センターの利用者は、定年退職を迎えた高齢男性など特定の方の繰り返し利用が多い。そうではなく、放っておくと学ぶことから遠ざかりがちな方々に対しアウトリーチしていこうという議論であった。また、“学べる環境”というところでは、現在、コロナ禍で、集まって講座を開くということが困難な状況であるため、ＩＣＴを使用した生涯学習に取り組んでいるところである。生涯学習センターとしては、コロナ禍の中でＹｏｕＴｕｂｅなどを積極的に利用して様々な講座を配信しており、町田市は先駆的に取り組んでいる部分だと評価している。さらに推進していけるよう議論しているが、オンライン化していく中で、スマホやＷｉ－Ｆｉ環境などで取り残されてしまう方々がいる。そういった方々のデジタルサポートを考えたり、博物館や美術館などデジタル化しているところに多くの市民がアクセスできるようにするにはどうしたら良いかなど、行政経営改革プランの生産性の向上や行政サービスのあり方などで示されている部分を視点に入れて話し合いをしている。「課題解決を支援する」「学びの裾野を広げる」「学びのネットワークづくりを促進する」については、これから議論を進めていく予定である。この審議会で委員の方々からいただいたご意見は、センター長や担当者と相談しながら、センター運協に伝え、逆にセンター運協からは審議会に答申に加えていただきたいエッセンスなどを伝えるつなぎ役を務めていきたい。来月の会議では、もう少し具体的なことをお伝えできればと思うが、現在、センター運協で出ている意見としては、市民協働の視点や民間活力などを使いオンライン化に対応できない方々を取り残さないための方法、生涯学習センターを知らない方が多いため、知ってもらうための取り組みをどうしていくか、紙ベースだけではなくホームページなど様々な方法での情報発信の検討、生涯学習センターで椅子に座って受ける授業だけではなく、例えば公園などの様々なところで遊んで学べるといった視点も生涯学習の中で取り組んでいこうと議論されている。また、町田市は、生涯学習センターが中央に１ヶ所だけであるため、そこをサテライトとしてどう広げていくかということもテーマにしており、１ヶ所であるということを強みに変え、多様なあり

方での事業の展開を議論している。答申の４つの視点をベースとして議論をしているため、その部分と大きく変わってしまうことがないよう、今後、情報は共有していきたい。

会　長：生涯学習センターについて議論するため、センター運協とは密に連携していく必要がある。社会教育委員がセンター運協を傍聴する機会があっても良い。生涯学習センターの情報発信機能として、民間の方たちがＦＭ放送を作って地域発信をしている事例なども考えてみてはどうか。

Ｎ委員：私は、町田市の小学校出身である。私の子ども、孫も同じ小学校に通っている。学校は身近なコミュニティであるため、例えば、小学校に学ぶ場があれば、子ども達だけではなく子どもを通わせている保護者も関心を持つと思う。小学校は身近なコミュニティの場として相応しい。また、生涯学習というのは、暇が出来たから学習を探すのではなく、様々なコミュニティの場から生涯学習のテーマを探すのではないか。

会　長：先ほどコミュニティ・スクールの話が出ていたが、東京都が最初に考えたのはスクール・コミュニティである。小学校、中学校の学校単位で地域の活性化を図っていこうというのが１つのあり方として出てきており、地域協働にもつながっている。今後、多様なあり方が出てくると思う。

Ａ委員：生涯学習ＮＡＶＩを見ると、例えば、町田市生涯学習センター主催に「親と子のまなびのひろば」があり、どうしてこれが子ども生活部ではないのか、なぜ生涯学習センターが取り組んでいるのか疑問に思うものがある。これからの生涯学習センターのあり方としては、専門分野はその専門の部署が行い、情報発信の手伝いや生涯学習センターで行ったアンケート調査の結果、市民から求められているものを関係部署に伝えるなど連携を進める役割が必要なのではないか。また、キーワードの中に、「市民主体の学び」とあったが、生涯学習センターの登録団体はとても多く、市民主体の学びを積極的になさっているが、新しい方たちの受け入れをしていないと思う。新しく学びたい方が、サークルなどを探しても見つからないというように学びたい方々の受け入れ先がないのが問題だと考えている。本来、共に学び、学んだことを還元させていくことが重要だと思うが、生涯学習センターが還元するシステムを持っていないというところを、今後検討していく必要があるのではないか。

事務局：「親と子のまなびのひろば」が子ども生活部ではなく生涯学習センタ

一主催なのは、この講座は、生涯学習センターの家庭教育支援事業として取り組んでいるものの１つだからである。子育て支援の一環としている学習で、こうした講座を通じて地域の担い手の育成を考えている。子ども生活部にも、町田市地域子育て相談センターというものがあるが、違いとしては、生涯学習センターは保護者の支援として、学んでいただいた保護者に地域で担い手を育成していただく、ということを第一に考えて実施しているということである。

会　長：棲み分けということではないが、生涯学習センターが全て出来るわけではない。生涯学習センターが必ずやっていかなければいけない部分がどこなのか、市長部局や他の機関が講座を展開していく必要のあるもの、そこと生涯学習センターがタイアップしていく部分との整理をする必要がある。そのようなことも含めて、どのようなあり方が相応しいか、現実的に考えていかなければならない。

Ｉ委員：資料４のスケジュールの中にワークショップが２回入っているが、なぜこの団体がワークショップの対象になっているのか。また、傍聴することはできるのか。

事務局：スケジュールに記載しているものは、開催可能なものである。実際にはもう少し開催したいと考えており、今後お声がけして、多くの方々にご参加いただきたいと思っている。傍聴については、実施方法を含めて検討中である。ワークショップでいただいたご意見については、６月の審議会に資料としてご提示するつもりである。

会　長：オンラインも含め、傍聴のあり方も変わってくるため、今後、検討していただきたい。我々の会議も、どこまで公開するのか難しいところではあるが、生涯学習センターは注目度も高いため、可能な限り傍聴できるように配慮が必要である。本日ご説明いただいたことは、全て理解できていない部分もあるかと思う。もし質問などあれば、あらかじめ事務局へ出していただいても良いのではないか。

事務局：オンライン会議ということもあり、質問しにくいというご意見をいただいている。自由民権資料館についての審議の際、委員の皆さまにアンケートというかたちでご意見をいただいたものをご提示して議論いただいたことがあった。今回も、事前に質問やご要望をいただくための用紙を送付し、いただいたご意見などを事務局で集約してご提示したいと考えているが、どうか。

会　長：あまり負担にならないようにしていただければ良い。

事務局：もちろん、ご発言するだけで大丈夫という方もいると思う。様々な方法で検討していきたい。

会　長：ぜひ、センター運協の情報も共有できるようにしていただきたい。
H委員：センター長と担当者と調整し、ご報告できるようにしたい。
会　長：最後に、事務局から何かあるか。

４．その他

事務局：本日の議論のまとめをさせていただく。大切なキーワードとしては、“多様性を受け入れる、重視していく”というご意見をいただいた。人材育成については、困難な若者などの学びがキャリアにつながり人材育成にもなるということ、町田市の歴史や文化を伝える町田マイスターを育てるといったご意見をいただいた。学校とのつながりについては、学校現場の状況を踏まえ、地域に伝える役割があるのではないか、それがまた学校に還元されるような仕組みが生涯学習であるというご意見があった。市民主体の学びというところでは、今後、市民にどのように主体性を持ってもらい当事者として参画してもらうかという視点を大切にしていくべきではないか。主体的な学びは多く行われているが、それが開放されておらず、閉じられた団体の中で留まっていることが問題であるため、学んだことを還元できる仕組みを作らなければならない、といったご意見があった。次回の会議は、２月１７日水曜日９時３０分から、今回に引き続きオンラインで開催する予定である。
会　長：これで、第５回生涯学習審議会を終了する。